

# 鉄鋼概況

## 2月輸出 過去2番目の高水準

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

2013年2月の国内粗鋼生産量は、前年同月(閏年)比3.4%減で3カ月ぶりに減少したが、超円高修正による輸出環境の改善や建材需要の回復などを背景に1日当たりの生産量は前月比3.9%増となった。2月の輸出(全鉄鋼ベース)は超円高の是正とアジアの海外市況の好転などを背景に前年同月比12.8%増の4カ月連続増加、2月としては過去2番目の高水準だった。新日鉄住金は、世界最高水準の競争力を実現し持続的な利益成長を目指すグループの中期経営計画(2013~15年度)を策定したと発表した。2月の世界(63カ国)粗鋼生産は1億2,325万8,000トンで、前年同月比1.2%増、前月比5.0%減となったが、日産量では5.2%増と2カ月連続で上昇した。中国、新興工業国、先進国ともに回復基調が続いている。

※※※

### ◆2月の鉄鋼輸出、4カ月連続の増

鉄鋼連盟が発表した1月末の普通鋼鋼材国内在庫(メーカー・問屋段階)は、前月末比19万2,000トン、3.2%増の565万3,000トンと2カ月連続の増加となった。国内在庫率は前月末比2.9ポイント低下して149.1%となった。一方、鉄連が行なった全国市中鋼材流通調査によると、1月末の普通鋼鋼材流通在庫は前月末比1万1,000トン、0.4%増の267万4,000トンと2カ月連続で増加した。1月の販売量は、前月比1万3,000トン、0.6%減の247万4,000トン(前年同月比1.7%減)と4カ月連続の減少となり、その結果在庫率は前月末比1.0ポイント上昇して108.1%となり26カ月連続して100%を上回った。

主要品種の在庫状況をみると、1月末の薄板3品(熱延・冷延・表面処理鋼板)の国内在庫(メーカー・問屋・コイルセンターの合計)は、前月末比9万9,000トン、2.6%増の401万8,000トンと4カ月ぶりに増加した。例年12月から1月にかけては新年の休日が影響して出荷が滞り、季節要因から過去10年平均で約10万トン増加している。在庫率は前月の2.42カ月から2.38カ月に低下した。足元の市場状況については建材分野の荷動きは堅調なうえ、自動車を中心にした製造業も中国の影響が薄れ、通常ペースに戻りつつある。また、主要建材製品であるH形鋼の2月末全国流通在庫は、新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比9,900トン、5.6%増の18万6,900トンと4カ月ぶりに増加した。在庫率は前月末比1.3ポイント上昇して2.19カ月となった。新日鉄住金では需給の適正化を図るために、受注の抑制を継続するとしている。

鉄鋼連盟が発表した2月の国内粗鋼生産量は、前年同月(閏年)比3.4%減の831万7,000トンで3カ月ぶりの減少となった。超円高修正による輸出環境の改善(1ドル=77円10銭→91円45銭)や建材需要の回復などを背景に1日当たりの生産量は29万7,000トン(年率換算1億840万トン)で前月比3.9%増、前年同月比横這いとなった。2012年4月~2013年2月までの累計は前年同期比0.7%増の9,784万7,000トンで、2012年度の粗鋼生産量は1億700万トン程度と見込まれ、前年度の1億646万トンを上回る見通しである。

2月の炉別生産は、転炉鋼が前年同月比1.5%減の637万トンで4カ月ぶりの減少となり、電炉鋼は同9.3%減の194万3,000トンで7カ月連続減となった。

財務省が発表した鉄鋼貿易統計によると、2月の輸出（全鉄鋼ベース）は超円高の是正とアジアの海外市況の好転などを背景に前年同月比12.8%増の360万3,000トンと4カ月連続しての増加となり、2月としては2011年の368万2,000トンに次ぐ過去2番目の高水準だった。一方輸入は割安感が薄れたことから、同15.3%減の49万1,970トンと5カ月連続の減少となった。輸出の向け先別内訳は、アジアは前年同月比15.1%増の284万3,000トンで、このうち中国は15.8%減の43万8,000トン、NIE'sは5.0%増の104万6,000トン、ASEANが36.4%増の115万6,000トンとなり、中国を除くアジアが高い伸びを続けている。しかし、アジア以外では米国が17.5%減の19万2,000トン、中東が14.5%減の12万4,000トン、EUが57.7%減の1万6,000トン、ロシアが2.4%減の2万2,000トンと減少している。一方、輸入の地域別内訳はアジアが14.0%減の41万4,600トンで、うち中国は23.4%減の7万2,000トン、ASEANが12.5%減の32万3,100トンとなっている。

### ◆新日鉄住金、新中期経営計画を発表

新日鉄住金は3月13日、世界最高水準の競争力を実現し、持続的な利益成長を目指すグループの中期経営計画（2013～15年度）を策定したと発表した。製鉄事業では、「技術先進性の発揮」、「世界最高水準のコスト競争力の実現」、「鉄源・圧延関連設備休止による最適生産体制の構築」、「グローバル戦略の推進」、「製鉄事業グループ会社の体質強化」の5つの施策を推進するとしている。

まず「技術生産性の発揮」では、統合による両社の製造技術力、商品技術力、研究開発力の融合により、世界最大規模（研究員約800人）・最高水準の技術力をさらに高め、プロセス革新、高機能商品開発などで世界をリードする。「世界最高水準のコスト競争力の実現」では、3年間を目途に年率2,000億円以上の統合効果を引き出す。統合効果の内訳は、旧両社の技術・研究開発成果の融合によるコストダウン600億円、最適生産体制の構築600億円、購買コスト削減300億円、本社部門のスリム化300億円、グループ会社の統合・再編200億円としている。

「鉄源・圧延関連設備の休止による最適生産の構築」では、鉄源工程において圧延工程の対策を踏まえたうえで、①各製鉄所の出銑→出鋼→熱延の一貫フル稼働、②高出銑比操業の極限までの追及、③低品位原料使用徹底による低コスト操業——を目指す。君津製鉄所では第3高炉休止（2015年度を目途）による高炉2基体制への移行、転炉1基操業への移行を図る。和歌山製鉄所では新2高炉の稼働を当面延期し、第1・第5高炉の現体制を継続する。圧延工程では、①国内地域別の拠点の最適配置、②海外ラインの拡大、③競争力劣位なラインの休止——を同時に実施し、コスト・品質・納期対応力など一貫競争力を向上させる。

「グローバル戦略の推進」では、品種ごとの国内外ベストミックスの生産・供給体制を追求する。特に①自動車向け等高級鋼、②資源エネルギー、③鉄道・建築土木などのインフラ関連——を戦略3分野と位置付け、サプライチェーンの拡充、グローバル供給体制の構築を進める。また、ブルースコープ(株)との連携を活用して海外のローカル需要をカバーする。さらに、現地ミドルグレードに需要捕捉に向けてASEANにおける鉄源・ホットコイル供給拠点の検討を進める（表参照）。これまで進めてきたアルセロール・ミッタル、ポスコなどとの提携効果の最大発揮も図る。「製鉄事業グループ会社の体質強化」では、統合シナジーの早期実現、競争力ある会社群の形成、連結経営資源の効率化などから重複する

機能などの統合・再編などをさらに進める。

また、「製鉄事業以外の各事業セグメントの方針とグループ総合力の発揮」では、エンジニアリング事業、化学事業、機能材料、新素材事業、システムソリューション事業など各事業セグメントが業界トップクラスの収益体質を確保する。加えて研究開発や需要家への総合ソリューション提案などでのグループシナジーの最大化を図っていくとしている。

「財務体質改善と成長投資の両立」のため、安定収益基盤の構築と3,000億円程度の資産圧縮を図り、成長戦略に必要な設備投資・投融資・研究開発などの資源投入を継続し、財務体質を改善する。設備投資は償却費の80%程度、戦略投資枠は年間1,000億円程度を予定している。財務体質はDEレシオ1.0倍程度の早期実現を果たし、国際A格(0.8倍程度)への改善を目指す。新たな成長に向けて、連結売上高経常利益率(ROS)は5%程度を最低目標とし、10%を達成できる企業体質を実現し、総合力世界ナンバーワンの地位を確立し、中長期でグローバルの生産規模を拡大していくとしている。

表1 新日鉄住金の直近の主要な既公表案件

内 容	国	分 野	成品能力 (万t/年)	稼働日/予定日
TENIGAL	メキシコ	自動車(CGL)	40	2013年7月
NSGT	タイ	自動車(CGL)	36	2013年10月
JCAPCPL(TATA社とのJV)	インド	自動車(CAPL)	60	2014年1月
NS Pipe Mexico	メキシコ	自動車(鋼管)	2	2013年6月
WINSteel	中国	ブリクライン等	80	2013年9月
VSB	ブラジル	エネルギー(OCTG)	60	2011年9月
Southern Tube	米国	エネルギー(OCTG加工)	7	2015年度目途
NSBS(BlueScope社とのJV)	アセアン・米国	インフラ(CGL)	140	2013年3月
CSVC	ベトナム	インフラ(CDCM等)	120	2013年4月
Standard Steel	米国	インフラ(車輪・車軸)	車輪 30万P/年	(2011年8月買収)

(出所)新日鉄住金株資料

## ◆2月世界粗鋼生産、前月比減

世界鉄鋼協会がまとめた2月の世界(63カ国)粗鋼生産は1億2,325万8,000トンとなった。前年同月比で1.2%増と5カ月連続増となったものの、前月比では5.0%減と2カ月ぶりに減少した。日産量では5.2%増と2カ月連続で上昇し、中国は7.6%増と最高記録を更新した。2月の63カ国の製鋼操業率は80.5%と2012年6月以来初の80%台となった。前月比3.8ポイント高と2カ月連続で改善し、前年同月比でも0.8ポイント上昇した。

中国以外の主要国・地域で2月の日産量の前月比をみると、新興工業国では韓国はポスコが高炉改修に入り4.1%減と2カ月連続で減少したが、インドは1.5%増、ブラジルは3.1%増といずれも2カ月連続で増加した。EU27は8.5%増と2カ月連続で増加し、北米は0.1%増と4カ月連続で伸び、日本も3.9%増と2カ月連続で増加しており、先進国も回復基調が続いている。 □